



令和5年4月1日
有松まちづくりの会

有松まちづくりの会役員会 (3月27日)

年度末を迎えて、本年度の活動の反省とウィズコロナとなっていくであろう来年度の活動の見直しを検討しました。5月18日(木)に開催する総会に向けて、年々減少している会員の増強をはかるためにはどうすればいいのか、有松まちづくりの会の基本方針を何にするのか、役員改選について、など早急に取り組むことが山積していると認識しました。

春のありまつ散歩道始まる (2月25日～3月21日)

節句人形として役目を終えた雛人形に「福よせ雛」として新しい役割を与えた取り組みは、しっかりと有松東海道に根を下ろしたようです。

毎年少しずつ新しい取り組みが見られます。今年はコロナ感染が減少傾向に向かう中、雛人形設置箇所が増やされています。お店や個人住宅の狭いスペースにも工夫された雛たちが鎮座しています。日本茶カフェMARUKIの入口には緑茶を味わう雛が・・

また、近年動きを工夫した雛ばかりでなく塗り絵雛(主に園児)や川柳も掲示されています。

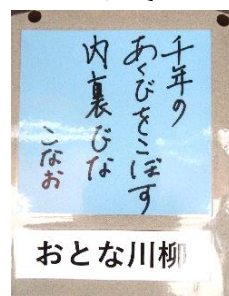
期間最終日の3月21日には、緑区役所主催の「春を感じようツアー」第1弾が有松を訪れ、福よせ雛に飾られた東海道を多くの参加者が楽しんでいました。25日は大高城跡公園で、29日は桶狭間の大池など桜の見どころを巡るとのこと。いずれも緑区ルネッサンスフォーラムの企画で、有松あないびとの会等地元ガイドの案内です。

おこしもんづくり (2月27日) 主催：NPO法人コンソーシアム有松

今年もカフェ庄九郎で行われました。感染防止のため一日5回参加者を分散して実施。訪れたときは2組の親子が、ラップを敷いた木型にお湯で溶いた米粉を押し付けていました。小さな子でも十分参加できる工夫です。蒸す間も別会場(彩-Aya Irodori-)で和紙染めをしていました。すでに折り畳まれた紙片を染め液に浸します。皆、見事な出来栄でした。



MARUKIにて



おとな川柳



配達員



有松まちなみ美術館（3月2日～5日、郵便局～24日） 主催 NPO法人コンソーシアム有松

竹田家書院に、片野元彦氏が考案された様々な技法で染め上げられた着物や飾布16点と、父を献身的に支えた長女片野かほり氏の折り縫い絞りの飾布1点が展示されていました。

竹田家(竹田昌弘氏)は片野元彦氏作品の有数のコレクターです。たくさんの作品がまとめて展示され、極めて貴重な機会となっていました。「片野絞り」の熟練した技と藍染絞りに捧げた片野氏の人生が見るものに伝わってくるようでした。

下記の3会場でも、様々なアーティストの作品が展示され、多くの人を惹き付けていました。



竹田家住宅で



有松郵便局での豊田信行切り絵展 旧山田薬局での筒描き展と制作説明 永井家でのガラス絞り

有松史料調査保存会発表会 開催（3月9日～12日） 於:棚橋邸

昨年に続き、日数を倍にしての開催。500人程が訪れました。保存会の桜花学園大学教授 根尾文彦氏は「昨年と比べ県外からの方、外国人も見られました。故竹田耕三氏が収集したアフリカの絞り布には関心が集まっていました」と反響の大きさを話して下さいました。

各コーナーでの丁寧な説明が有松への深い理解を促していました。



《主な展示内容》 故竹田耕三コレクション (上)有松の懐かしい写真展 (下)鈴木金蔵家史料

- ①江戸時代の旅日記に見る有松
- ②有松の懐かしい写真展
- ③有松駅の歴史
- ④旧家に残る史料
- ⑤故竹田耕三収集の品

及び浮世絵



質の高い説明パネルだけでなく映像ビデオ上映やホッとする旅姿イラスト(川勝尚子画)、ジュディ・オングの大型版画など工夫された展示でした。

有松の魅力発見ツアーで有松を堪能 (2月22日・3月12日)

2回にわたり有松の文化の奥深さを探求する散策会が、緑区ルネッサンスフォーラムの主催で行われました。400年以上にわたり、絞りの伝統が継承されてきた有松。今に残る重厚な建物群ばかりでなく、歴史的な風景が醸し出すものを竹田家住宅や有松天満社に尋ねました。

1回目 2/22 竹田家住宅コース

竹田嘉兵衛氏より「東海道中膝栗毛」での弥次さん喜多さんの様子やイギリスの外交官アーネスト・サトウの幕末の日記に「もっとも清潔」と有松が紹介されている話を伺いました。その後建物内を見学し、栽松庵や蔵・庭、書院、洋間などでは驚きの喚声が聞かれました。他に岡家住宅や久田本店にも寄り、有松の「文化」を堪能していました。



竹田家住宅書院での説明風景

(中央が竹田嘉兵衛氏)

2回目 3/12 天満社コース

東町と中町の町歩きと山車会館・天満社見学。祭りに有松の文化を感じていただく内容でした。山車会館では展示中の唐子車"輪掛け"の螺鈿細工に感動の声。祇園寺で仏足石を見た後、いよいよ天満社見学です。虹橋・いろはの滝そして長い参道の石段を登って社殿前へ。息が整うのを待って、"八棟造"の豪勢な建物に向き合います。「こんなに細かく作ってある」と。



東海道での見学風景・棚橋邸での様子(上)

終了後、棚橋邸での「有松史料調査保存会 発表会」に立ち寄られる方も多く見られました。

有松天満社春季大祭 (3月19日)

下の広場には屋台が立ち並び、多くの子ども連れが押し寄せていました。長い参道を登り上の広場に着くと、文嶺講の皆さんとお手伝いの東陵中学校の生徒さんが多くの参拝客をお出迎え。今年は西町神功皇后車150年を記念して「御朱印」が用意されていました。「今年一年、イベントの時に頒布します。図柄は天狗と龍の2種類あります」と、文嶺講の川勝尚子さん。



写真:上段は上の広場 下段は下の広場



←御朱印

アリマツマーケット開催 (3月5日) 於:有松天満社一帯

好天に恵まれ、物販や飲食のブースに多くの若者が訪れていました。下の広場や祇園寺の体験型ブースには幼い子を遊ばせる親子がいっぱい。

長坂道入口付近の旧理髪店セヴィアでは、空き店舗再生を目指しての取り組みが始まっていました。おむすびの事前予約コーナー(写真右)や、レトロな店内には交流スペースが設けられ談笑姿が見られました。



天満社上の広場 旧理髪店店頭

一里塚さっぱり、清掃作業行われる（3月7日）

恒例となりつつある春の一里塚清掃。有松あないびとの会の例会に合わせて行われました。4月中旬並みという暖かい日で、作業ははかどっていました。

最終的にはゴミ袋25個程の除草ができましたが、様子を見ると、しんどい作業というより和気あいあい日頃の付き合いの延長です。「この時期に根っこから抜いておかないと」の声が聞こえてきます。西の玄関ともいえる一里塚、おもてなしの心が伝わってきました。



桶狭間古戦場観光案内所 新築移転（2月28日）

半年余り建て替え工事が行われていた桶狭間古戦場観光案内所が、元の場所に新築移転しました。訪問したときは、午前中の引っ越し作業を終えた3名の方が真新しい室内の片付け中でした。以前の案内所の広さに戻り、いろいろな販売品も見やすく展示されていました。ショーケース上には、御城印帳やスタンプが置かれ、来客の方もスタンプ押しに余念がありません。楽しい桶狭間めぐりの雰囲気が部屋に満ちていました。



川口廣次の有松街並情景画④



有松の街並み

赤い丸ポスト 塗り替え（2月25日）

磐田市職人さんが1時間程かけて塗り替え作業を行っていました。有松には郵便局前と西町に2基、赤丸ポストがあります。市内には5基あるとのこと。町の景観によく合っています。赤丸ポスト専用の特殊な色の塗料とのこと。一時箱型が置かれていました。



催事・行事の予定

- 4月17日(月) 18:00 有松町並み相談会 コミセン
- 4月23日(日) 7:30 かえで道清掃 有松まちづくりの会
- 4月24日(月) 18:00 有松まちづくりの会役員会 コミセン
- 4月中旬 絞りの鯉のぼり展示 有松東海道沿い 同実行委員会

発行者 竹田嘉兵衛(有松まちづくりの会 会長)
編集者 加藤 明美(有松まちづくりの会 広報部長)
pegasusb@mc.ccnw.ne.jp

有松まちづくりの会は、ホームページを公開しています。

